

夏播きハウレンソウの品種特性と 栽培のポイント

——寒冷地・高冷地——

雪印種苗㈱中央研究農場

安 達 英 人

ハウレンソウの栽培は作りやすい春、秋播き栽培が中心でしたが、7～9月は生産量が少なく、価格が高価に推移していることから、北海道・岩手・群馬などに新産地が形成されています。

夏播き栽培の難しさは、ハウレンソウの生育特性に合わない時期に、困難な条件を技術的に補って栽培しなければならないところにあります。従って、品種特性を理解し、適切な栽培管理技術を確立することが高品質、安定出荷につながります。

弊社では、夏播き用品種として「ジュリアス」を既に発売しご利用いただいておりますが、今春から晩春、夏播き用品種として「アーガス」、夏播き用品種として「ジュノス」を新発売することになりましたので、それぞれの品種特性及び栽培のポイントについて紹介いたします。

1 品種の特性

最近、野菜の高品質化が進む中で、ハウレンソウについては、消費者、市場側から葉色の濃いもの、抽苔のないもの、葉面の縮みが少なく尖葉であるものなどの要望があります。「アーガス」「ジュリアス」「ジュノス」は弊社が開発した優良品種で、これらの特性を十分に備えた夏播き用F₁品種です(図1)。

◎アーガス

～濃緑色で品質抜群、初夏・晩夏穫りが本命～

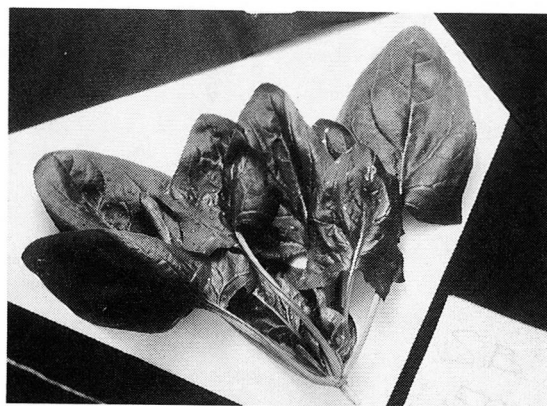
4月下旬～5月下旬、および7月中旬～8月中旬播きで生育良好で、抽苔も安

定して遅く、初夏・晩夏穫り専用品種です。葉は長円形で先端がやや尖り、葉色は濃緑色で市場性は抜群です。北海道での6月播種は一部抽苔が発生することがありますので注意して下さい。べと病レース1, 2, 3いずれにも抵抗性があり、作りやすく、汚染地域でも作付できます。

◎ジュリアス

～生育早く、安定した晩抽性で夏穫りが本命～

5～7月播きで生育が早く、抽苔は遅く、安定した夏穫り専用の豊産種です。葉は長円形で先端がやや尖り、葉色は濃緑色で葉面の縮みは少ない。草姿は半立性で株張りが良く、また葉身と葉柄の



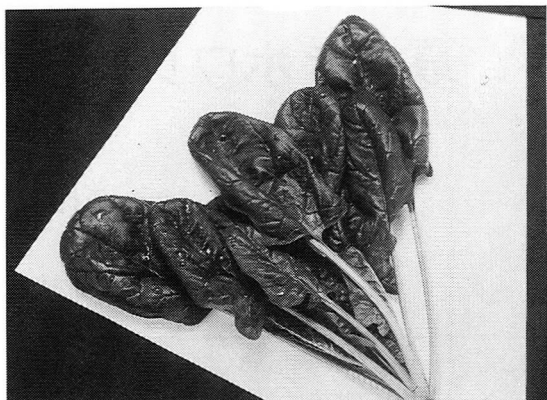
アーガス

月 品種	4月	5月	6月	7月	8月	葉色	抽苔性	葉の縮み	べと病	葉形
アーガス	■	■		■	■	濃緑	やや遅い	少	強	尖葉
ジュリアス		■	■	■		濃緑	遅い	少	強	尖葉
ジュノス			■	■		濃緑	遅い	中	強	尖葉

図1 各品種の適播種期と特性



ジュリアス



ジュノス

バランスが良いので結束作業が容易です。べと病レース 1, 2, 3 に抵抗性があります。

◎ジュノス

～安定した極晩抽性で夏穫りが本命～

6月上旬～7月中旬播種で生育良好で、抽苔も極めて安定して遅く、夏穫り専用種です。最も抽苔しやすい北海道の6月播きでも抽苔は安定して遅く、収穫前に抽苔が始まることはありません。葉は円形で葉肉厚く、葉色は濃緑色で品質良好です。また、株張りが良く大株になり、ボリューム感があります。

べと病レース 1, 2, 3 に抵抗性があり、作りやすい品種です(表1参照)。

2 栽培のポイント

夏播きハウレンソウ栽培は高温期での栽培

表1 ホウレンソウ作期別の品種比較試験

(昭61 中央研究農場)

品 種	抽苔始 月 日	葉色	葉形	欠刻	葉面	葉長 cm	葉幅 cm	一株重 g	抽苔率 %
5月3日播種	45日目調査								
アーガス	6/14	6.5	3.5	1.5	4.0	24.7	10.9	32.9	2
ジュリアス	6/17	6.5	3.0	1.0	4.0	23.8	9.7	28.1	0
サンライト	6/13	5.5	4.5	1.5	5.0	25.1	9.4	31.1	19
晩抽バイオニア	6/13	6.5	2.5	1.0	4.0	20.8	8.2	20.7	7
5月13日播種	42日目調査								
アーガス	6/21	6.5	3.5	1.0	4.0	22.1	9.3	25.0	5
ジュリアス	6/27	6.5	3.0	1.0	3.5	20.0	8.7	20.9	0
サンライト	6/20	5.5	4.5	1.0	4.5	23.4	10.5	31.7	42
サンシャイン	6/25	6.5	2.0	1.0	3.0	19.7	8.4	19.6	0
6月2日播種	39日目調査								
アーガス	7/4	5.5	5.0	1.5	5.5	25.1	9.5	26.3	43
ジュリアス	7/8	6.0	5.0	1.0	5.0	26.9	9.8	24.9	20
ジュノス	7/11	6.5	4.0	1.0	3.5	24.2	9.8	20.3	4
シンフォニー	7/5	5.0	5.0	1.0	4.5	28.6	10.1	20.0	85
サンシャイン	7/5	5.5	3.5	1.0	4.0	23.9	8.0	17.5	7
6月14日播種	38日目調査								
アーガス	7/18	5.5	5.0	1.5	4.5	31.6	12.4	36.2	16
ジュリアス	7/20	5.5	5.0	1.5	5.0	30.7	11.7	36.0	6
シンフォニー	7/17	5.0	5.0	1.5	5.0	28.2	10.9	11.7	81
サンシャイン	7/19	5.5	3.0	1.0	4.0	26.9	10.6	28.6	21
6月14日播種	41日目調査								
ジュノス	7/23	5.5	3.5	1.0	4.0	29.1	12.2	39.5	3
パワフル	7/21	6.0	3.0	1.0	3.5	32.8	12.2	40.1	15
7月1日播種	36日目調査								
アーガス	7/29	5.5	4.5			30.0	10.0	23.8	18
ジュリアス	8/5	6.0	4.5			28.3	10.1	22.1	4
サンライト	7/28	5.0	5.0			31.0	10.5	20.6	62
晩抽バイオニア	7/30	5.0	5.0			29.1	9.6	22.2	39

注) 評点基準 葉形



葉色: 9 (極濃緑色)～1 (黄緑色)

欠刻: 9 (深)～1 (無)

葉面: 9 (極滑)～1 (極縮)

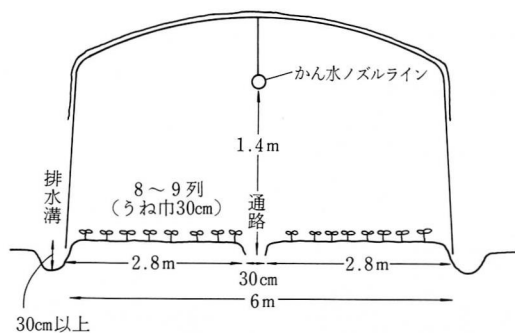


図2 雨よけハウスの設置法

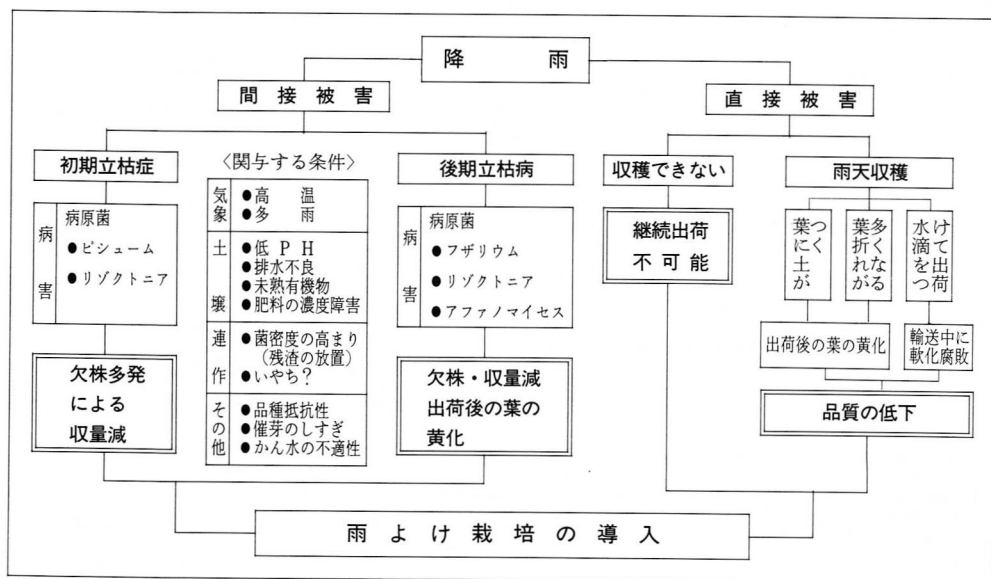


図3 降雨によるハウレンソウの生産・出荷不安定要因

となるため、発芽不良、土壌病害の発生等の問題を十分把握して栽培にかからなければなりません。

◎雨除けハウス栽培で優品の安定継続出荷を！

雨除けハウス栽培は天候に左右されることがなく播種、間引き、収穫等の作業が計画的に行うことができ、安定した生産が可能になります。また、降雨による損傷がないため優品率が高まり、日もちの良い優品が生産できます。

最近では、天井ビニールに紫外線カットフィルムを用い、土壌病害の発生を少なくしている例もあります（図2、3）。

◎適切な施肥と有機物施用で土づくりを！

ハウレンソウは一年に3～4連作することが多いため、毎作同じ施肥を行うと土壌中に肥料分が蓄

積し、生育に支障をきたす場合があります。1作ごとに土壌分析を行い、残存している肥料分を考えた施肥を行うことが大切です。標準施肥量は表2、4のとおりですが、連作する場合は、特に窒素分については表3に基づいて残存量を推定して、次作の施肥量を決定します。pHは6～7、EC（土壌電気伝導度）は0.5～1.0 ミリモーが適当な範囲です。

堆きゅう肥の施用は毎年行い、後作としてエンバクなどの緑肥作物を作り、地力の維持を図ります。また、ハウスに塩類集積の障害がみられる場合には、ハウスを移動する方法と、ソルゴーなど

を作り、肥料分を吸収させてハウス外に持ち出す方法があります。

◎均一な発芽揃いで株数確保を！

播種は播種機かシードテープを用い、高温期はやや厚目に播いた方がよく、均一な発芽揃いとなります。

高温期では催芽を行うことが望ましく、種子を10～12時間くらい水に浸漬し、よく水を切った後、涼しい場所に種子を薄く広げて催芽します。播種

表2 ハウレンソウの施肥基準（10a当り成分量）

窒素	リン酸	カリ
15kg	10kg	12kg

表3 残存N量の推定に基づくN施肥量の補正

EC値	推定による 残存N量	N施肥量(kg/10a)			
		10	15	20	25
>1.0	20	0	0	0	5
1.0～0.75	15	0	0	5	10
0.75～0.50	10	0	5	10	15
0.50～0.25	5	5	10	15	20
0.25～0	0	10	15	20	25

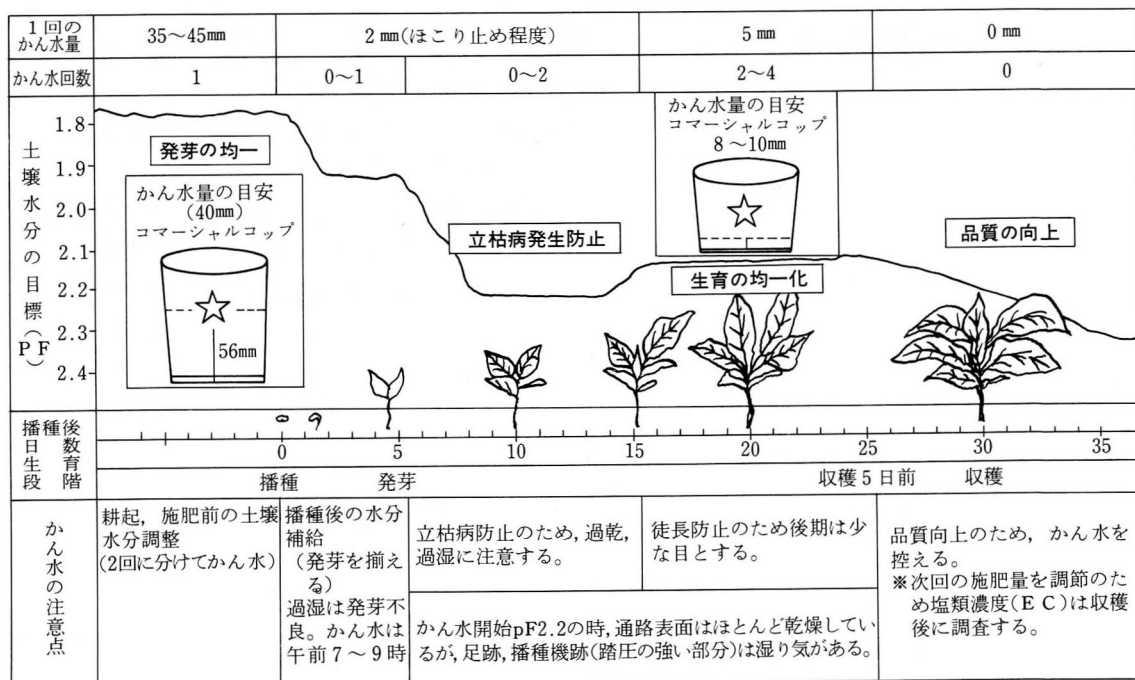


図4 ハウス雨よけ栽培のかん水の目安(播種後30日収穫の場合)

表4 雨除けハウス年間連作栽培施肥例

連作回数		基 肥 (10a 当り成分量kg)				
		第1作	第2作	第3作	第4作	計
チ	ソ	20～22	10～15	5～10	0～5	35～52
リ	ン	20～22	6～9	3～6	0～3	29～40
カ	リ	20～22	9～14	4～9	0～4	33～49

〈備考〉(1) 純度の高い家畜ふん尿は、成分換算して基肥量を設定する。

(2) 有効態リン酸80mg/100g以上の熟畑では、夏作ホウレン草のリン酸施用量を減じてよい。

適期は種子の10%くらいが出芽したときですが、畑は播種前日に十分かん水しておきます。

また、通常はキャプタン剤あるいはチウラム剤の種子消毒を行います。催芽種子には薬害がでやすいので、浸漬水に1,000倍液を用い消毒します。

栽植密度は間引き後1m²当り80～100株を目標とし、この場合の播種量は10a当り3～4lです。

◎かん水技術が生育の良悪を左右する！

高温で乾燥する時期の夏播き栽培では、かん水技術が重要なポイントとなります。

およそのかん水量、時期は図4のとおりですが、土質に合ったかん水技術を確認することが大切です。べと病の発生しやすい時期は早朝のかん水が良い。

◎規格を守り、病害・軟弱株は収穫しない！

収穫は草丈25cm前後を目標としますが、この時期は葉の伸びが早いので、草丈20cmころから収穫を始め、25～27cmまでに終えるようにします。

4～5月播きのアーガスで播種後35～45日、5～7月播きのジュリアスで播種後28～35日、6～7月播きのジュノスで播種後30～35日ぐらいで収穫できます。

夏季の収穫はしおれが早いので、早朝に行うようにし、調整・結束作業は日陰で行い、箱詰めしたものは直ちに予冷库に搬入し、品温を下げます。

最近では、パラ・ダンボール箱出荷にかわり、結束・FGフィルム包装・発泡スチロール出荷が遠距離輸送に適しており普及しています。

